

平成30年10月～12月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関
堺商工会議所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数D I 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所800社（建設業200社・製造業200社・卸売業100社・小売業100社・サービス業200社）
3. 調査期間 平成30年12月14日（金）～平成30年12月28日（金）
4. 回収率

	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200社	102社	51.0%
製造業	200社	104社	52.0%
卸売業	100社	50社	50.0%
小売業	100社	55社	55.0%
サービス業	200社	110社	55.0%
全産業	800社	421社	52.6%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- D I 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別のD I 値の意味について】

- 業況判断 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … D I 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … D I 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … D I 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(10月～12月期)の前年同期比を見ると、業況判断、売上高及び採算は改善、資金繰りは横ばい、雇用人員は悪化となった。

来期(1月～3月期)の予測については、雇用人員は改善、業況判断、採算及び資金繰りはやや悪化、売上高は悪化となっており、引き続き市内中小企業の動向については、注視していく必要がある。

1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 7.0 \Rightarrow 0.2$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($0.2 \Rightarrow \Delta 2.6$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は2期連続で改善。卸売業及びサービス業は改善。建設業及び製造業はやや改善。

・前年同期比の指標は改善。



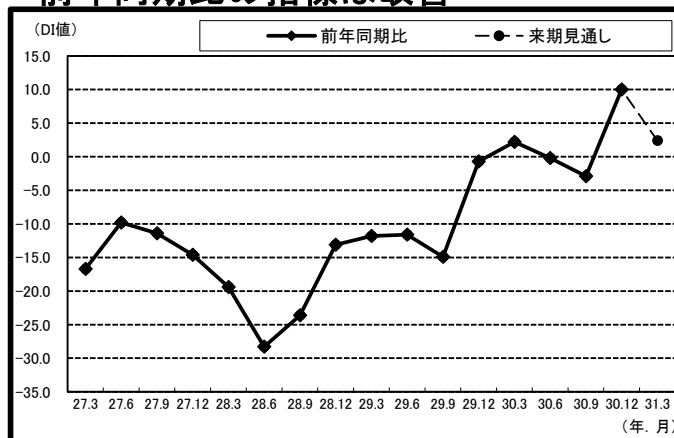
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 2.9 \Rightarrow 10.0$)

・来期見通しの指標は悪化と予測。
($10.0 \Rightarrow 2.4$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は2期連続で改善。製造業、卸売業及びサービス業は改善。建設業はやや悪化。

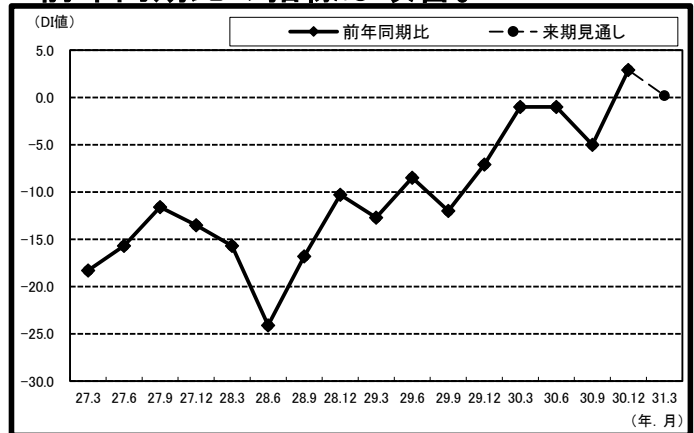
・前年同期比の指標は改善



3. 採算の動向

- ・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 5.0 \Rightarrow 2.9$)
- ・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($2.9 \Rightarrow 0.2$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は2期連続で改善。製造業及び卸売業は改善。建設業はやや改善。サービス業は横ばい。

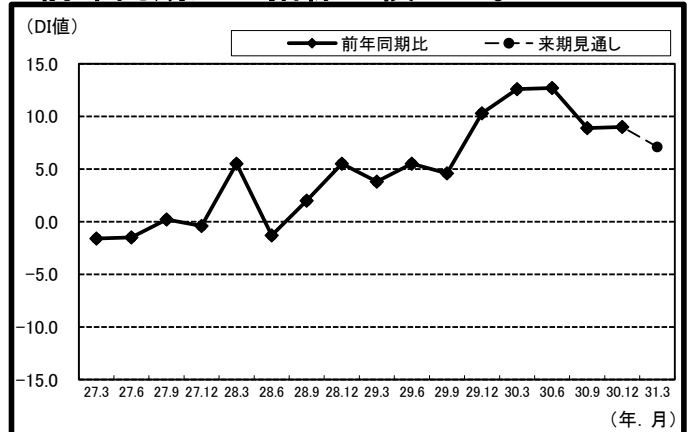
・前年同期比の指標は改善。



4. 資金繰りの動向

- ・前年同期比の指標は横ばい。
($8.9 \Rightarrow 9.0$)
- ・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($9.0 \Rightarrow 7.1$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は改善。建設業はやや改善。サービス業は横ばい。製造業は悪化。卸売業は2期連続で悪化。

・前年同期比の指標は横ばい。



5. 雇用人員の動向

- ・前年同期比の指標は悪化。
($0.7 \Rightarrow \Delta 4.0$)
- ・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 4.0 \Rightarrow 0.7$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業は2期連続で改善。小売業は改善。建設業、製造業及び卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は悪化。

